

# 令和6年度保育園自己評価

社会福祉法人こひつじ会  
小百合保育園

保育所においては、常に自らの保育を振り返り、子どもへの理解を深め、保護者との信頼関係を築いていくことが求められています。自己評価の取組を通して、保育の質の向上を図ってまいります。また、職員会議を通して職員全員が取組みの結果や保育所の課題について、共通認識を深めてまいります。課題意識をもって次の保育の計画に活かしていくことや、保育所の組織としての機能をさらに高めています。

## 評価の方法

- ◎・・・よく出来て（理解して）いる
- ・・・出来て（理解して）いる
- △・・・努力が必要である
- ×・・・改善・検討を要す

## 1. 保育の理念・目標

内 容	評価
保育理念、保育目標を職員が理解している。	◎
保育理念や保育目標、保育に対する考え方が保護者に知らされている。	○
クラスだよりや配布物を通して毎月の保育目標が周知されている。	◎

## 2. 保育計画

内 容	評価
保育計画を作成し、見通しをもった保育を実施している。	◎
各年齢の発達状況に配慮した指導計画となっている。	○
長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育内容や方法に配慮している。	△
年間計画、年間行事の見直しをしている。	◎

## 3. 個人情報保護

内 容	評価
個人情報の取り扱いについて入園時に保護者に説明している。	◎
業務上知り得た子どもや家族の情報について守秘義務が守られている。	◎
保護者との面談内容や子どもの記録が厳正に管理されている。	○

#### 4. 保育環境

内 容	評価
保育室、園庭に危険物が無いか毎日チェックしている。	◎
遊具や保育室に修繕が必要な箇所があった場合迅速に対応している。	◎
子どもが落ち着いて過ごせるよう、クラス毎や季節ごとに工夫を凝らす。	○
園内外が清潔で心地よい空間となっている。	○
各保育室にティッシュやペーパータオルが常備されている。	◎
子どもが活動しやすい様に保育室の温度、湿度、換気、採光などに配慮している。	◎

#### 5. 保育内容

内 容	評価
遊びや生活を通して人間関係が育つような配慮をしている。	◎
乳児クラスでは一人一人の生活リズムを意識した保育を行っている。	◎
絵本の読み聞かせや紙芝居など言葉に触れる機会を積極的に取り入れている。	◎
生活の中に季節を感じることが出来るような工夫を取り入れている。	○
音楽に親しみ、歌ったり踊ったり、楽器を演奏する楽しさを味わう機会がある。	○
季節を感じる園外活動を取り入れ、年齢に合わせ目的を持った活動が出来ている。	◎
伝統行事や異なる文化に触れる機会を作っている。	○

#### 6. 給食

内 容	評価
アレルギー疾患を持つ子に対し、栄養士と担任が連携し対応している。	◎
献立や展示食で、子どもたちが食べているものの情報が伝わる工夫をしている。	◎
子どもの嗜好や食べる量を把握する取り組みをしている。	◎
子どもたちが食に興味持てるような取り組みを積極的に行っている。	◎
給食が楽しく食べられるよう工夫されている。	△

#### 7. 地域支援と安全対策

内 容	評価
送迎時に子どもの姿を保護者に伝えている。	◎
園だより、クラスだより、給食だよりを定期的に発信し保護者が情報を受け取れるようにしている。	◎
園庭開放、保育相談など地域住民が保育園を利用しやすい体制を整えている。	△
地域の行事や祭事に積極的に参加することにより地域交流を行っている。	△
感染症の発生状況や注意事項が保護者に向け発信されている。	◎
不審者対策と不審者訓練を定期的に行っている。	○
園外保育時のルートが確定され事前に安全確認をしている。	○

## 8. 職員の資質向上

内 容	評価
各職員に適切な研修機会を確保している。	○
職員の健康管理に努め、通院治療のための時間が取得できる体制がある。	◎
職位や役割分担が明確にあり、過度な負担が個人に及ぼないようになっている。	◎
問題意識を共有する仕組みがあり、園全体で取り組む体制がある。	△
子どもの発達やクラス運営について専門家のアドバイスが受けられる体制がある。	◎
ICT 保育システムを扱うためのコンピュータリテラシーを学ぶ体制がある。	◎

## 9. 働きやすさに向けての取り組み

内 容	評価
希望した時期に有給休暇や育児・介護休暇が取得できる。	○
仕事として研修や講習に参加する場合の金銭的な個人負担を軽減する。	◎
職員会議など職員が意見を述べる機会と場所が設定されている。	◎
明確な賃金体制と昇給制度があり、常に待遇がわかるようになっている。	○
各種ハラスメント規定が就業規則で明記されており、それを遵守する体制がある。	◎

## 園全体の評価

全体的に○以上が多かったが、部分的に見ていくと改善する余地はまだ多くある。特に気になった点として以下がある。

3. 個人情報の取り扱いについては、今までの紙媒体から ICT 保育システムに移行することにより、日常の保育の個人的な記録について人為的ミス（入力ミス）による個人情報漏洩の可能性が考えられる。扱う者の細心の注意が必要。

6. 給食が楽しく食べられる工夫がある。については検討が必要である。コロナ渦以後幼児クラスは同一方向で食べているが、楽しい給食という見え方はしない。食べることに「楽しく」が付加できるようにする工夫が必要。

## 来年度の課題

地域との交流は、少子化傾向もあり地域の行事や祭事が縮小される傾向にある。一方で学区内小学校との交流は今後注力したい内容となる。現段階では自己評価の項目に小学校との交流についてはないが、来年度からは設定してもよいと思う。また、給食の時間がどうしても形式的（時間で食べさせることが優先）になりがちである。食事の作法は教えていくが、楽しく食べられるような工夫は職員会議で議題としたい。